

# 鹿児島大学建築学科の学習・教育到達目標と評価方法

学習・教育到達目標			目標の達成度を評価するための科目			応用的・発展的科目		
			2016年度からの科目名	評価基準	目標達成のための総授業時間	科目名	到達目標	
A	技術者の使命感と倫理観：建築技術者としての使命感と倫理観を持って建築を考える能力を養う。	A1	建築に対する興味や職業観および使命感を持つ素養を身につける。	フレッシュマンセミナー	左の科目の単位を修得すること。	4.5 以上	学外実習、インターンシップ	建築の実務に触れ、実務者の職業倫理観を学ぶ。
		A2	職業人や技術者としての倫理観の欠如から起きた事故や自然環境破壊の事例を学び、建築技術者としての倫理的責任を自覚して建築を考える能力を養う。	建築と倫理	左の科目の単位を修得すること。	22.5 以上		
		A3	研究の背景、課題設定、研究結果の利用において、建築技術者としての社会への貢献と責任について考える能力を養う。	卒業論文	左の科目の単位を修得すること。さらに、指導教員によって左記到達目標の到達度が評価される。	10.0 以上		
B	工学の基礎知識・能力：建築技術を理解するための工学の基礎能力を養う。	B1	微分、積分、線形代数の数学的概念を理解して具体的課題を解決する能力と、これを建築技術へ応用する能力を養う。	微分積分学A1・AII、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、建築の数学	左の科目の単位をすべて修得すること。	112.5 以上		
		B2	自然科学における運動、エネルギー現象、力学、電磁気学に関する法則・原理を理解し、具体的課題を解決する能力を養う。	物理学基礎A1・AII、基礎物理学実験	左の科目の単位をすべて修得すること。	63.0 以上		
		B3	ワードプロセッサ、表計算、インターネット、プレゼンテーションの情報処理リテラシーを活用できる能力を養う。	情報活用	左の科目から2単位以上を修得すること。	16.5 以上	プログラミング演習	簡易なプログラミングの知識を身につける。
C	建築の基礎知識・能力：建築における基本的な考え方や基礎的な建築技術を理解して応用できる能力を養う。	C1	建築設計の基本となる平面図・断面図・立面図による製図法、模型や透視図などを用いた表現方法と建築計画理論および建築の芸術的側面を理解し、これらの知識を基に住宅の設計課題を行って具体的な建築空間を構想し建築設計できる能力を養う。	建築計画基礎演習、設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ、建築設計Ⅰ、建築計画	左の科目の単位をすべて修得すること。	135.0 以上	建築デジタルデザイン論	CADの概要と特徴を理解し、その製図技術やモデリング技術を修得する。
		C2	屋外環境と建物内の人間行動によって光、熱、空気、音、水等の屋内環境が形成される過程を理解し、これらの屋内環境を建築計画手法と建築設備技術によって制御するための基礎能力を養う。	環境計画Ⅰ、環境工学Ⅰ、設備計画Ⅰ	左の科目の単位をすべて修得すること。	67.5 以上		
		C3	建物に被害を及ぼす災害や建物へ作用する外力と、これらに対して建物が安全に維持されるための建築構造の形態と力の流れを学び、力の流れを把握するための建築構造力学に関する基礎能力を養う。	建築構造のしくみ、構造力学Ⅰ、建築振動と防災	左の科目の単位をすべて修得すること。	67.5 以上	構造力学演習Ⅰ	各科目で学んだ知識を応用して問題を解く能力を養う。
		C4	金属、非金属、コンクリート、木材などの建築材料の種類と性質、その用い方と納まり、また建物の設計図書から建設されるまでの建築施工の基本的な工程と、そこでの建築技術と管理業務等についての基礎知識を身につける。	建築構法、建築材料、建築施工	左の科目の単位をすべて修得すること。	67.5 以上	建築材料の科学	建築材料の科学的側面についての基礎知識を身につける。
		C5	人類がこれまで発展させてきた建物の様式と形態の歴史を学び、都市における建物のあり方と法的規制を総合的に理解するための基礎知識を身につける。	建築史、都市計画、建築法規	左の科目の単位をすべて修得すること。	67.5 以上	地域環境史、地域施設計画、学外実習	
D	建築の高度な知識・能力：高度な建築技術を理解して建築の設計へ応用できる基礎能力を養う。	D1	建築の計画・環境・構造に関する基礎知識を利用して大空間建物、病院、集合住宅などの具体的建物・施設の設計課題を行い、建物を取り巻く地域や周辺環境に配慮しながら多様な機能・要求に応える建物を建築設計できる能力を養うとともに、設計製図に用いられるCADの操作を修得する。	建築設計Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業設計	左の科目の単位をすべて修得すること。	112.5 以上	建築デザイン	近代以降の社会と建築デザインの変遷を把握し、これからの建築を思考するための基礎となる幅広い視点を養う。
		D2	各種建築物の省エネルギー、室内空気汚染問題、空気調和等の環境設備に関わる高度な知識を修得し、建物内の熱、空気、音の移動現象を定量的に評価する技術を学び、それらを建築計画手法と建築設備技術によって制御するための基礎能力を養う。	環境計画Ⅱ、環境工学Ⅱ、設備計画Ⅱ、設備計画演習	左の科目から4単位以上を修得すること。	45.0 以上	建築実験	各科目で習ったことを実際の実験・計測・計算を通じて理解を深める。
		D3	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造の構造性能と設計方法を学び、これらを用いて建物を構造設計できる基礎能力を養う。	構造力学Ⅱ、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造	左の科目の単位をすべて修得すること。	67.5 以上	構造力学Ⅲ、構造設計、建築物の耐震設計、基礎構造、構造力学演習Ⅱ、建築実験、鉄筋コンクリート構造演習	高層建物・大空間建物や免震構造・制震構造の構造設計へつながるマトリックス構造解析と地震時の建物の応答を学ぶ。
E	自主的・継続的学習能力とエンジニアリング・デザイン能力：新しい建築文化や建築技術の創造へつながる自主的・継続的学習能力およびエンジニアリング・デザイン能力（必ずしも正解の無い複合的な課題に対して、創造的かつ効果的な解決策を提示できる能力）を養う。	E1	建築設計のように必ずしも正解の無い複合的な課題に対して、地域社会からの要求・要請を理解した上で、様々な技術・手法・情報を活用して創造的かつ効果的な建築設計案を分かりやすく提示できる能力と、設計作業を計画的に進めて期限内に設計図面や模型を完成させる能力を養う。	フレッシュマンセミナー、設計基礎演習Ⅱ、建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業設計	左の科目の単位をすべて修得すること。	156.0 以上		
		E2	建築における未解決の課題や新しい建築技術に関する卒業研究を行い、自らの専門的能力と判断力を駆使して研究課題に粘り強く取り組む素養と、当該課題の歴史と今後の動向を把握して自ら問題設定を行い、自主的・継続的に学習できる能力を養う。	卒業論文	左の科目の単位を修得すること。さらに、指導教員によって左記到達目標の到達度が評価される。	10.0 以上		
F	多面的に考える能力：幅広い視野に立って多面的に建築を考えることができる素養を身につける。	F1	思想や文化、現代社会における社会観や歴史観、現代人の健康や社会への関わり方などについての基礎知識を身につけ、また自然科学と数学および科学技術における基本的な考え方を理解して、地球的視点から多面的に今後の方向と課題を正しく展望できるための素養を身につける。	大学と地域、異文化理解入門 教養基礎科目（人文・社会科学） 基礎物理学実験を除く教養基礎科目（自然科学） 統合Ⅰ・Ⅱ 体育・健康科学理論B、体育・健康科学実習Ⅰ 建築未来学概論 卒業論文	左の科目の単位をすべて修得すること。 左の科目から4単位を修得すること。 左の科目の単位をすべて修得すること。 左の科目の単位をすべて修得すること。 左の科目の単位を修得すること。さらに、指導教員によって左記到達目標の到達度が評価される。	240.0 以上	専門選択科目のD群科目、E群科目	工学の技術と諸問題を多角的に捉えるための素養を身につける。
G	コミュニケーション能力とチームで仕事をするための能力：建築に関する国内外の活動の場でコミュニケーションができる基礎能力とチームで仕事をするための能力を養う。	G1	卒業研究の結果を報告書にまとめ、その研究過程や研究成果を図表を用いて分かりやすく日本語で発表し、聴衆の反応を観て説明を修正でき、質疑に対して的確に回答することを通じて、日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を養う。	卒業論文、卒業設計	左の科目の単位を修得すること。さらに、卒業論文では指導教員によって左記到達目標の到達度が評価される。	14.5 以上		
		G2	英語により表現される内容を理解するとともに、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーションの基礎能力を養う。	英語ⅠA・ⅠB、英語ⅡA・ⅡB、英語ⅢⅠ・Ⅳ、英語Ⅴ・Ⅵ	左の科目の単位をすべて修得すること。	157.5 以上		
		G3	他者と協働して、チームで仕事をするための能力を養う。	初年次セミナーⅠ、基礎物理学実験、情報活用、フレッシュマンセミナー、建築設計Ⅳ、建築未来学概論	左の科目の単位をすべて修得すること。	15.0 以上	建築実験	話合いの下で連携して作業を分担し、チームとして実験を安全に成功させる。